

水稲



水稲営農情報



水 稲

吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

収穫までの水管理 落水期の延長

米の登熟や品質向上を図るためには根の活力維持が大切です。そのためには、間断灌水による水管理と、適期落水が大きく影響します。落水は収穫に支障のない限り遅らせてください。(収穫前5日～7日程度)

収穫・乾燥調整

収穫適期は籾黄化率が85%になった頃です。収穫が早いと青未熟、収穫が遅れると茶米等の発生要因となります。

刈り取り作業は、コンバイン刈りの場合、つゆがなくなっ

た頃から始めるのがもっとも効率が良く、傷籾の発生も少なくなります。暑い時期の収穫作業ですので、生籾で長時間放置しますとムレ米が発生します。収穫後は、速やかに通風乾燥を行ってください。高温乾燥は胴割れや碎米の要因となりますので、機種にあった温度設定で行いましょう。

かけ干しの場合は、期間を3～4日とし、適正玄米水分15%～16%で早めに脱穀してください。

玄米仕上げ水分は15%を目標としてください。過乾燥や高水分は品質や食味を落としますので充分注意しましょう。入念な調整作業を行い、整粒歩合(80%目標)を高めましょう。

果樹



7月の柑橘園管理



果 樹

木蜜 栄次
上島営農指導センター
080-1759-0088

梅雨明け後、定期的に降雨がない場合は灌水を行いましょう。また、今月は摘果の重要な時期となります。

暑い中の作業となりますが、肥大を良くするためにも早期に摘果作業に取り掛かりましょう。

1. 病虫害防除

6月にハーベストオイルを散布できなかった園地では、7月上旬までに散布を終えてください。希釈倍数は200倍での散布となります。また、夏芽の発生に伴いアブラムシ等の防除も必要となりますので、適期防除をお願いします。

対象品種	防除時期	対象病虫害	農薬名	希釈倍数	備考
温州	上旬～中旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍	混用散布
		アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	※モスピランSL液剤	4,000倍	
中晩柑	中旬	黒点病	エムダيفアー水和剤	600倍	混用散布
		アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	※モスピランSL液剤	4,000倍	
温州 中晩柑	発生時	ミカンハダニ	バロックフロアブル	2,000倍	幼虫・卵対象
		ハマキムシ	エクシレルSE	5,000倍	
		カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	
			MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	

※1. アザミウマ類、ゴマダラカミキリはアドマイヤーフロアブル4,000倍も使用可能です。

2. 施肥・葉面散布

栽培タイプ	肥料名	品種名	施用時期	10a当たり袋数
省力化タイプ	アグリロング28号	清見・河内晩柑・甘夏 パール柑・デコボン	7月上旬	5袋

○デコボン、早生・普通温州の果皮強化対策(こはん症・浮皮防止など)

・ジュシーカル又はバイカルティ 1,000倍

3. 摘果の実施

○温州みかん…小玉果や病害虫果を中心に摘果してください。また、日焼けしやすい上向き果も摘果しましょう。

○中晩柑…今月の中旬までに粗摘果を終わるよう作業を進め、最終着果数の120%程度まで落とします。品質の悪

い裾成り・内成りから行い、その後赤道部と樹上部の小玉果や傷果を中心に摘果しましょう。

品種名	階級目安	7月1日	7月10日	7月20日	8月1日
デコボン	2L	31ミリ	37ミリ	43ミリ	47ミリ
清 見	2L	31ミリ	37ミリ	44ミリ	49ミリ
甘 夏	2L	33ミリ	38ミリ	47ミリ	57ミリ
河内晩柑	L	40ミリ	45ミリ	55ミリ	59ミリ
パール柑	2L	50ミリ	57ミリ	67ミリ	75ミリ

4. 温州みかん品質向上対策

○タイベック被覆の実施

品質向上の為に、タイベック被覆を行いましょう。

また、被覆後は定期的に果実分析を行い、品質に応じた水分管理を行いましょう。

品種名	被覆時期	品種名	被覆時期
極早生	6月下旬～7月上旬	中生	7月中旬
早生・肥のあけぼの	7月中旬	普通	8月上旬

○フィガロン散布の実施

マルチ被覆と併せ、フィガロンを散布する事により品質の向上を図ります。下の表を参考に実施しましょう。

1回目の散布時期は満開日より60日後、2回目は満開日より80日後となります。但し、収穫前日数は14日です。

使用の際はご注意ください。

※使用薬剤 フィガロン乳剤

品 種	1回目		2回目	
	散布時期	希釈倍数	散布時期	希釈倍数
極早生	7月上旬	2,000倍	7月下旬	2,000倍～3,000倍
早生・中生	7月中旬	2,000倍	8月上旬	2,000倍～3,000倍
普通	7月中旬	2,000倍	8月上旬	2,000倍～3,000倍

野菜



抑制力ボチャ栽培



野菜

小林 優介
下島営農指導センター
080-1729-1635

作 型	8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	○←→○◎←→◎←							→				
	播種		定植		誘引・交配・葉散			収 穫				

1. 品種…くりゆたか等

2. 圃場準備…排水対策を徹底し、畦幅は3～4mの高畦ベ
ットを作る。

施肥量 (kg)

10A 当り	N	P	K
基 肥	12～15	20～25	12～15
追 肥	3	3	3
合計	15～18	23～28	15～18

3. 播種…8月上旬～中旬に直播又は、セルトレー・ポットに
播種する。

播種量は10a当り1本仕立て1000粒(2粒まき)、
本葉1～2枚で1本に間引き(ハサミ等で切り落と
す)。

4. 定植…株間40～50cm、植穴処理を行い定植。活着するま
では灌水する。

5. 整枝…一本仕立て

主枝が60cm位伸びた頃わき芽を除き、風等で動か
さないように主枝を等間隔に抗や棒等で真直ぐ固定
する。着果位置は、12～15節程度。

6. 交配…9月上旬～下旬にミツバチ等や雄花を利用した人工
交配により必ず着果させる。

7. 追肥…着果確認後にソフトボール大の大きさになった頃、
速効性肥料を施用する。中耕と除草を兼ねて蔓が1
mほど伸びた時に待ち肥を行う。

8. 収穫…着果後50～55日前後で収穫。

9. 病害虫…アブラムシ、オンシツコナジラミ、ハモグリバエ、
うどんこ病等が発生する為早めの防除を行う。

花卉



土壌還元消毒について



花 卉

竹川慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

あまくさ管内では、7月に入り主要品目であるカスミソウ、トル
コギキョウ等の出荷が終了し、片付けの後次年産の準備が行われ
ます。そこで今回はJAあまくさ管内でも取り入れられている土壌
還元消毒について紹介します。

1. 効果と方法

還元消毒法は平成11年に道南農業試験場で開発された土壌
消毒法です。この消毒は、ハウス土壌に米ぬか(又はふすま)を
混和し、かん水することで土壌を還元化して土壌病害菌やセン
チュウを死滅させる方法です。

特徴は、有毒ガスが発生しないこと、米ぬかを利用するため材
料費が安い等です。

・還元消毒法の対象病害

病害菌名および病名	害虫名
フザリウム菌 (萎凋病、イチゴ萎黄病、メロンつる割病など)	センチュウ類 (ネコブセンチュウ)
パーティシリュウム菌(半身萎凋病)	
ラルストニア菌(青枯れ病)	

2. 還元殺菌法の手順

(1)材料

- ・米ぬか 300kg/10a ソイルクリーン(発酵菌) 3袋/10a
- ・被覆用透明マルチ(古ビニールでも可)
- ・かん水チューブ(散水チューブでも可)
- ・水 30t以上/100坪
- ・かん水用ポンプ及びその他

(2)作物残さの整理

ハウス内の作物残さを搬出し、マルチ、かん水チューブ等を
撤去します。ハウスの被覆を張ったままにしておきます。

(3)地面の整地

耕起を行い畦を崩して地面を均平にします。

(4)米ぬか・ソイルクリーンの散布

米ぬか・ソイルクリーンを10a当りの必要量をムラのないよう
施用します。

(5)耕起

米ぬか・ソイルクリーンを散
布後、直ちに耕起します。そ
の際、かん水ムラができないよ
う地面を均平に仕上げます。



米ぬかの散布

(6)チューブの設置

ハウス全面にかん水が行き渡るようチューブを設置します。
かん水チューブは60cm間隔に設置し散水チューブは能力に応じ
てハウスに1～4本を設置します。

(7)かん水の実施

100～500mmにかん水を行います(100坪ハウスの場合30～45t)。

(8)被覆

かん水終了後、透明マルチで地面を覆います。

(9)ハウスの密閉

ハウスを密閉し約20日間ほど放置します。この間にドブのよ
うな臭いがすれば消毒は成功です。

(10)消毒後処理

放置後、被覆用透明マルチ、チューブなどを撤去し数日間解
放して終了です。



被覆後の様子



終了時の様子